～情報サービス産業動向調査～
会員アンケート調査票

2025 年 12 月

一般社団法人 情報サービス産業協会

ご記入にあたってのお願い

1. 本調査は、情報サービス産業の実態を把握し、情報サービス企業各社における今後の経営戦略の立案などに資する情報提供を行うために実施するものです。
2. 当協会が毎年刊行しております「情報サービス産業白書」では、過去２年間にわたってデジタル化とテクノロジーの影響やその捉え方、それらに対する情報サービス産業としての対応などを検討してきました。この間、生成 AI に代表される AI 技術はその存在感をますます高めており、情報サービス産業への影響も大きなものとなっております。他方、少子高齢化が進むなどの中で、情報サービス産業では人手不足の状況が続いており、人材確保が大きな課題であり続けてきました。AI をはじめとする技術革新が進んでいくことで、将来的には社会や当業界の有り様、必要となる人材の質と量が大きく変わる可能性も考えられます。それに向けて、現状の人材を質・量の面からいかに対応させていくかは、各企業の大きな課題となるのではないでしょうか。
3. これらを踏まえ、2026 年夏刊行予定の「情報サービス産業白書 2026 年版」では、「AI 時代における情報サービス産業の人材問題を考える」とのテーマを設定し、「情報サービス産業では今後質・量の両面で、十分な人材を確保することが可能なのか、逆に過剰となることがあるのか」「特に、AI（生成 AI、AI エージェント）の普及がこの状況にどのような影響を与えるのか」「こうした不透明な状況下で、情報サービス産業はどのように行動するべきなのか」といった疑問に答え、情報サービス産業の活性化に寄与することを目的としています。
4. この調査票では、以下の内容についてお尋ねします。
   (ア) 貴社の事業概要
   (イ) 貴社における経営の現状・今後の見通し
   (ウ) デジタル化による社会変化
   (エ) AI の発展や普及に伴うビジネス環境の変化
   (オ) 貴社の社風、組織風土
   (カ) 貴社における人材充足状況と今後の見通し
   (キ) 貴社に対する AI の影響
   (ク) 貴社の業務のうち、特に情報システムやソフトウェアの開発・運用に関しての AI 活用状況
   (ケ) 貴社における IT 人材の採用状況や採用のための施策
   (コ) 貴社で求められる人材のスキル

5. ご回答の方法は各質問文に示されておりますが、特に断りがない場合は該当する番号にチェックをつけてください。また、空欄が設けられている場合には該当する番号、仮名、数値を空欄内にご記入ください。なお、「その他」を選択された場合は、（ ）内にその内容を具体的にご記入ください。
6. ご回答いただいた内容は、すべて統計的に分析・処理されます。本調査へのご回答により、貴社になんらかの影響が発生することは一切ありません。
7. ご回答者の個人情報は、当協会事務局において厳重に管理いたします。原則として、ご回答いただいた内容の照会や集計結果の送付以外の目的に使用することはありません。
8. ご記入いただいた調査票は、2026 年 1 月 9 日(金)までに、メール、ファックス、郵送等にてご返送ください。本調査は WEB フォームからもご回答可能です。
9.

■回答送付先／お問い合わせ先：一般社団法人 情報サービス産業協会
〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-3-4 S-GATE 大手町北 6F
電話 ： 03-5289-7651 FAX ： 03-5289-7653
E-mail ： wpq@jisa.or.jp （担当：田畑・澤井）

ご回答者（ご回答内容についての照会先/集計結果送付先）

所在地	〒	
貴社名		
ご担当者	お名前	TEL:
	部署・役職名	
E-mail		

本アンケートで用いる用語の定義

AI に関する用語について、本アンケート中では以下のように定義します。判断に迷われた場合にご参照ください。

用語	定義
生成 AI	文章や画像、動画等を生成する AI 技術の総称。人間の指示（入力）に対して、答えを返してくる対話形式が一般的。 現在のサービスでは、ChatGPT、Microsoft Copilot、Gemini、Claude Code などがこれに該当する。
AI エージェント	設定された目標や、自然言語で与えられた指示に対して、自動的にタスクを決定（必要に応じてタスクを細分化）して処理を実行する機能をもつ、単にコンテンツを生成する生成 AI の能力を拡張し、自律的なタスク遂行を可能にする AI 技術の総称。 現在のサービスでは、GitHub Copilot Coding Agent、Devin、Cursor などがこれに該当する。

なお、本アンケートには、「生成 AI」「AI エージェント」のそれぞれについて同内容をお尋ねしている設問があります。　生成 AI はすでに現場で多用されていると思われますが、AI エージェントはまだ実用面で端緒についた段階であり、今後の実用上での発展浸透に期待が寄せられているものと想定しています。本アンケートでは、その期待度や急速な進展状況を調査するため、あえて両者を分けて回答していただく形を取っています。回答にはお手数をおかけしますが、ご了承いただければ幸いです。

貴社の事業概要についてお伺いします

Q1. 貴社の直近年度の「a. 売上高」「b. 経常利益」「c. 正規従業員数」をご回答ください。

※連結ではなく、貴社単体としてご回答ください。

a. 売上高（1 つだけ）

☐ 1. 5 億円未満
☐ 2. 5 億～10 億円未満
☐ 3. 10 億～20 億円未満
☐ 4. 20 億～50 億円未満
☐ 5. 50 億～100 億円未満
☐ 6. 100 億～200 億円未満
☐ 7. 200 億～500 億円未満
☐ 8. 500 億円以上

b. 経常利益（1 つだけ）

☐ 1. 赤字
☐ 2. 0～1,000 万円未満
☐ 3. 1,000 万～5,000 万円未満
☐ 4. 5,000 万～1 億円未満
☐ 5. 1 億～5 億円未満
☐ 6. 5 億～10 億円未満
☐ 7. 10 億～50 億円未満
☐ 8. 50 億～100 億円未満
☐ 9. 100 億円以上

c. 正規従業員数（1 つだけ）

☐ 1. 50 人未満
☐ 2. 50～100 人未満
☐ 3. 100～200 人未満
☐ 4. 200～300 人未満
☐ 5. 300～500 人未満
☐ 6. 500～1,000 人未満
☐ 7. 1,000～2,000 人未満
☐ 8. 2,000～5,000 人未満
☐ 9. 5,000 人以上

Q2. 貴社の主要顧客の業種として当てはまるものを全て選び、該当する番号にチェックをつけてください。

（いくつでも）

☐ 1. 農林漁業
☐ 2. 鉱業
☐ 3. 建設業
☐ 4. 製造業（コンピュータメーカ関係）
☐ 5. 製造業（コンピュータメーカ以外）
☐ 6. 電気・ガス・熱供給・水道業
☐ 7. 運輸業
☐ 8. 通信業
☐ 9. 卸売・小売・飲食店
☐ 10. 金融・保険業
☐ 11. 不動産業
☐ 12. 情報サービス業
☐ 13. その他サービス業
☐ 14. 公務その他

Q3. 貴社の事業のうち、最も割合の高い開発形態は何ですか。最も近いものを 1 つ選び、該当する番号にチェックをつけてください。（1 つだけ）

☐ 1. 自社サービス開発
☐ 2. 情報子会社･･･親会社などグループ企業向けのシステム企画/開発/運用業務が最も多い
☐ 3. 受託開発（元請け）･･･親会社などグループ企業以外からの委託業務（元請け）が最も多い
☐ 4. 受託開発（中間下請け）･･･元請けではなく、再委託（外注）している
☐ 5. 受託開発（最終下請け）･･･元請けではなく、再委託（外注）は（ほとんど）していない
☐ 6. その他（　　）

Q4. 貴社の主要顧客（売上ベース）の規模として最もよく当てはまるものを選び、該当する番号にチェックをつけてください。（1 つだけ）

☐ 1. 大企業（従業員数 1,000 人以上）が多い
☐ 2. 中堅企業（従業員数 300 人以上～1,000 人未満）が多い
☐ 3. 中小企業（従業員数 300 人未満）が多い

貴社における経営の現状や今後の見通しについてお伺いします

Q5. 貴社では、昨年度（2024 年度）と比べた今年度（2025 年度）の業況をどのように見通していますか。以下のそれぞれの項目について、貴社の見解として該当する番号にチェックをつけてください。

選択肢		大きく増加 (+10%超)	やや増加 (+5～+10%)	ほぼ横ばい (±5%以内)	やや減少 (-5～-10%)	大きく減少 (-10%超)
A. 全体						
①	売上高	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
②	経常利益	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
B. 全体のうち「特定顧客からの受託（開発・運用等）」						
①	売上高	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
②	経常利益	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
C. 全体のうち「自社パッケージ・IT サービス」						
①	売上高	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
②	経常利益	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
D. 全体のうち「顧客との共同事業」						
①	売上高	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
②	経常利益	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5

Q6. 貴社では、昨年度（2024 年度）と比べた来年度（2026 年度）の業況をどのように見通していますか。以下のそれぞれの項目について、貴社の見解として該当する番号にチェックをつけてください。

選択肢		大きく増加（+10%超）	やや増加（+5～+10%）	ほぼ横ばい（±5%以内）	やや減少（-5～-10%）	大きく減少（-10%超）
A. 全体						
①	売上高	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
②	経常利益	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
B. 全体のうち「特定顧客からの受託（開発・運用等）」						
①	売上高	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
②	経常利益	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
C. 全体のうち「自社パッケージ・IT サービス」						
①	売上高	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
②	経常利益	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
D. 全体のうち「顧客との共同事業」						
①	売上高	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
②	経常利益	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5

Q7. 貴社では、昨年度（2024 年度）と比べた今年度（2025 年度）の自社への投資をどのように計画していますか。以下のそれぞれの項目について、該当する番号にチェックをつけてください。

選択肢		大きく増加（+10%超）	やや増加（+5～+10%）	ほぼ横ばい（±5%以内）	やや減少（-5～-10%）	大きく減少（-10%超）
①	全体	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
②	人材関連投資	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
③	設備関連投資	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
④	IT 関連投資	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑤	研究開発関連投資	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑥	マーケティング関連投資	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑦	M&A	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5

Q8. 直近 3 年程度における貴社の課題認識としてあてはまるものを、該当する番号にチェックをつけてください。（いくつでも）

□ 1. 継続的に発生していた案件が中止・延期・縮小されつつある
□ 2. 新規案件が減少している
□ 3. 自社のケイパビリティでは対応できない要望が増えている
□ 4. 顧客ニーズの把握が薄れている
□ 5. 営業機会が減少している
□ 6. 自社サービスや、営業力、技術力の競争優位性が低下している
□ 7. 人材が不足している
□ 8. その他（　　）

Q9. 以下の領域について、今後の見通しをどのようにお考えですか。以下のそれぞれの項目について、該当する番号にチェックを付けてください。(1 つずつ)

選択肢		現状売上があり、10 年程度またはそれ以上安定した売上を保てると思う	現状売上があり、5 年程度売上を保てると思うが、以降は減少するリスクを感じる	現状売上があり、直近数年以内で減少するリスクを感じる	現状売上がない	わからない
①	新規システムの受託開発	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
②	既存システムの保守・運用	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
③	パッケージ/SaaS の販売	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
④	システムコンサルティング	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑤	DX 推進のコンサルティング	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑥	顧客との事業共創（JV、レベニューシェアなど)	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑦	その他 （　　）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5

Q10.　Q9 の現状売上がある領域について、(A) 現在の売上で最も割合の大きい領域と、(B) 今後事業を拡大しようと計画している領域について、それぞれ該当する番号にチェックを付けてください。(A,B で 1 つずつ)

選択肢		A. 現在の売上で最も割合の大きい領域	B. 今後事業を拡大しようと計画している領域
①	新規システムの受託開発	□ 1	□ 1
②	既存システムの保守・運用	□ 2	□ 2
③	パッケージ/SaaS の販売	□ 3	□ 3
④	システムコンサルティング	□ 4	□ 4
⑤	DX 推進のコンサルティング	□ 5	□ 5
⑥	顧客との事業共創（JV、レベニューシェアなど)	□ 6	□ 6
⑦	その他 （　　）	□ 7	□ 7

AIの発展や普及に伴うビジネス環境の変化についてお伺いします。

Q11.　AIの発展や普及に代表される環境変化によって、貴社が属する業界（業種）や市場は、今後10年程度の間にどの程度の影響を受けると思いますか。(1つだけ)

☐ 1. きわめて大きな影響を受ける
☐ 2. ある程度大きな影響を受ける
☐ 3. 多少の影響を受ける
☐ 4. ほとんど影響を受けない
☐ 5. 分からない

Q12.　AIの発展や普及に代表される環境変化を考えた場合に、貴社の現在のビジネスが現在の競争力を確実に維持できるのは、今後何年後くらいまでだと思いますか。(1つだけ)

☐ 1. 1年未満
☐ 2. 約1年後
☐ 3. 約2～3年後
☐ 4. 約5年後
☐ 5. 約10年後
☐ 6. 約15年後以降
☐ 7. 分からない

Q13.　AIの発展や普及を踏まえ、貴社の経営層は、ビジネスをどのように変革する必要があると考えていると思いますか。最も近いものを1つ選んでください。(1つだけ)

☐ 1. ビジネスモデルそのものを抜本的に変革する必要があると考えている
☐ 2. 既存事業のプロセスを大幅に見直し、競争力を強化する必要があると考えている
☐ 3. 部分的な業務効率化を進める必要があると考えている
☐ 4. 当面は大きな変革は不要と考えている
☐ 5. 分からない/経営層の意図は共有されていない

Q14.　上記のような危機感は、貴社内でどこまで共有されていると思いますか。以下のうち、危機感が共有されている層として当てはまるものをすべて選んでください。(いくつでも)

☐ 1. 経営層
☐ 2. 幹部社員層
☐ 3. 管理職層
☐ 4. 中堅社員層
☐ 5. 一般社員層
☐ 6. 分からない/経営層の意図は共有されていない

貴社の社風、組織風土についてお伺いします。

Q15.　今後、自社が市場で勝ち抜くために、以下の項目は、それぞれどのくらい重要だと思いますか。（それぞれ 1 つずつ。※ご回答者個人の印象としてお答えいただいて構いません。）

選択肢		非常に重要である	ある程度重要である	あまり重要ではない	まったく重要ではない	分からない
①	社会や顧客への貢献意識が強い	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
②	自社や自社ブランドが好きな人材が多い	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
③	仕事を楽しんでいる人材が多い	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
④	今後目指すべきビジョンが明確である	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑤	変革や挑戦を好む	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑥	果敢にリスクを取ることが尊重される	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑦	スピードが重視される	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑧	個人の裁量が大きい	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑨	実力主義である	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑩	管理部門よりも事業部門の権限が強い	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5

貴社における人材充足状況と今後の見通しについてお伺いします。

Q16.　貴社における IT 人材の充足状況（過不足感）について教えてください。（それぞれ 1 つずつ）

選択肢		大いに過剰である	過剰気味である	概ね過不足感はない	不足気味である	大いに不足している	保有していない／必要としていない	分からない
A. 全体								
①	要員全体	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
B. 全体のうち「従来型 IT 人材」								
①	**プロジェクトマネージャ**（プロジェクト全体を統括し、進捗・品質・コストを管理できる人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
②	**シニア SE（上流 SE）**（顧客要件定義や業務設計等の上流工程を担える人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
③	**SE（システムエンジニア）**（設計・実装・テストを通してシステム開発を行う人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
④	**プログラマ**（コーディングやテストなど具体的実装を担う人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
⑤	**アーキテクト**（システム全体の方式・構成を設計し最適化できる人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
⑥	**運用オペレーションエンジニア**（定型的なシステム運用・監視、維持管理等を担う人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
C. 全体のうち「DX/AI 人材」								
①	**プロダクトマネージャ**（デジタルや AI ビジネスの実現を主導し価値を創出する人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
②	**ビジネスデザイナー**（デジタルや AI を活用し新規事業を企画・推進する人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
③	**プロダクトエンジニア**（デジタルや AI ビジネスの価値を実装し具現化できる人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
④	**データサイエンティスト**（事業・業務に精通し、データ分析で課題解決を行う人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
⑤	**フルスタックエンジニア**（AI を活用し、要件定義から運用まで全工程を統合できる人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
⑥	**フォワードデプロイドエンジニア**（顧客現場に入り、AI やデータを活用して課題を迅速に解決する人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
⑦	**AI エンジニア/AI サイエンティスト**（AI モデル開発や生成 AI 応用を担う人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
⑧	**データマネジメントエンジニア**（データ基盤を構築し品質・ガバナンスを確保できる人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7
⑨	**SRE エンジニア**（自動化と継続的な運用改善による効率化により信頼性の向上を担う人材）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6	□ 7

Q17.　貴社では IT 人材の充足状況（過不足感）について今後どのように変化すると考えていますか。（それぞれ 1 つずつ）

選択肢		大いに過剰な状態となる	過剰気味となる	概ね過不足感はない状態となる	不足気味となる	大いに不足する状態となる	分からない
A. 全体							
①	1 年後	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6
②	3 年後	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6
③	5 年後	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6
B. 全体のうち「従来型 IT 人材」							
①	1 年後	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6
②	3 年後	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6
③	5 年後	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6
C. 全体のうち「DX/AI 人材」							
①	1 年後	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6
②	3 年後	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6
③	5 年後	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5	□ 6

（注）「従来型 IT 人材」「DX/AI 人材」に該当する人材については、直前の Q16 の選択肢に示してありますので、ご参照ください。

貴社に対する AI の影響についてお伺いします。

Q18.　貴社では、AI の活用によって主に何を目指していますか。全体的な方向性として最も当てはまるものを 1 つ選んでください。（それぞれ 1 つずつ）

選択肢		この列から1つ 生成AIの活用	この列から1つ AIエージェントの活用
①	事業価値の創造（新規事業開発や既存サービスの付加価値向上を最優先する）	□ 1	□ 1
②	業務効率性の向上（コスト削減や生産性向上を最優先する）	□ 2	□ 2
③	営業利益率の向上（営業利益率を最優先する）	□ 3	□ 3
④	方向性を絞ることなく、得られるものを得ようとしている	□ 4	□ 4
⑤	現時点では、明確な方針はない	□ 5	□ 5
⑥	分からない	□ 6	□ 6

Q19.　貴社では、AI をどのような領域で活用していますか。また、（今後 3 年程度で）活用を検討している領域はどこですか。（それぞれいくつでも）

選択肢		現在活用している領域	今後活用を検討している領域
A. 新規事業・サービス開発			
①	AI を活用した新規事業・サービスの企画・開発	□ 1	□ 2
②	既存製品・サービスへの AI 機能の組み込みによる高付加価値化	□ 1	□ 2
B. ビジネスプロセスの改革・高度化			
①	営業・提案・マーケティング（需要予測、顧客分析等）活動の高度化	□ 1	□ 2
②	経営判断の迅速化・高度化（市場分析、経営シミュレーションなど）	□ 1	□ 2
③	バックオフィス業務（人事、経理、総務等）の抜本的な効率化	□ 1	□ 2
C. ソフトウェア開発・運用プロセス			
①	ソフトウェア開発プロセスの効率化・自動化	□ 1	□ 2
②	システム運用・保守の自動化・省力化	□ 1	□ 2
D. その他			
①	特にない／検討していない	□ 1	□ 2
②	その他（　　）	□ 1	□ 2

Q20.　AI 時代において、貴社は顧客に対してどのような価値を提供していくべきだとお考えですか。(3 つまで)

☐ 1. 最新 AI 技術の迅速なキャッチアップとソリューション提供
☐ 2. 顧客のビジネス課題を深く理解し、AI を活用した事業変革を提案するコンサルティング能力
☐ 3. 顧客と共に、AI を活用してビジネスモデルを変革・高度化する構想策定力
☐ 4. 高品質な AI システムを迅速に開発・実装する技術力
☐ 5. AI を含めた複雑なシステム全体を安定稼働させる運用・保守能力
☐ 6. 顧客企業の社員に対する AI リスキリング支援
☐ 7. 従来の受託開発・保守の継続による IT 基盤の安定提供
☐ 8. 分からない
☐ 9. その他（　　）

貴社の業務のうち、特に情報システムやソフトウェアの開発・運用に関しての AI 活用状況についてお伺いします。

Q21.　貴社の業務のうち、特に情報システムやソフトウェアの開発・運用に関して、AI をどの程度活用していますか。(それぞれ 1 つずつ)

選択肢		生成ＡＩの活用 この列から1つ	ＡＩエージェントの活用 この列から1つ
①	情報システムやソフトウェアの開発・運用に係る部門全体で導入・利用している	☐ 1	☐ 1
②	情報システムやソフトウェアの開発・運用に係る部門の一部で導入・利用している	☐ 2	☐ 2
③	組織としては導入・利用しておらず、個人での利用を行っている	☐ 3	☐ 3
④	利用していない	☐ 4	☐ 4
⑤	利用を禁止している	☐ 5	☐ 5
⑥	分からない	☐ 6	☐ 6

【情報システムやソフトウェアの開発・運用に関して AI を活用していると回答した方にお伺いします（Q21 で①～③を少なくとも一つ選択した方）】

Q22.　具体的にはどのような工程/用途で利用していますか。（それぞれいくつでも）

	選択肢		生成ＡＩの活用	ＡＩエージェントの活用
A. 工程	①	業務要件定義	□ 1	□ 1
	②	システム要件定義	□ 2	□ 2
	③	基本設計	□ 3	□ 3
	④	詳細設計	□ 4	□ 4
	⑤	プログラミング	□ 5	□ 5
	⑥	単体テスト	□ 6	□ 6
	⑦	結合テスト	□ 7	□ 7
	⑧	総合テスト	□ 8	□ 8
	⑨	受入テスト	□ 9	□ 9
	⑩	移行	□ 10	□ 10
	⑪	運用（AIOps/監視・障害調査/問い合わせ/チューニング）	□ 11	□ 11
	⑫	保守（改善・改修）	□ 12	□ 12
	⑬	分からない	□ 13	□ 13
B. 用途	①	コード補完（人間がコーディングする際の支援）	□ 1	□ 1
	②	コード生成（AI によるコーディング）	□ 2	□ 2
	③	テストコード作成	□ 3	□ 3
	④	テスト自動化	□ 4	□ 4
	⑤	コードレビュー	□ 5	□ 5
	⑥	設計支援	□ 6	□ 6
	⑦	ドキュメント作成支援	□ 7	□ 7
	⑧	RAG/ナレッジ検索（社内文書検索・要約）	□ 8	□ 8
	⑨	要件・テスト観点の抽出	□ 9	□ 9
	⑩	見積・提案書作成支援	□ 10	□ 10
	⑪	翻訳（技術文書・コードコメント）	□ 11	□ 11
	⑫	契約・規約のレビュー支援	□ 12	□ 12
	⑬	運用自動化（AIOps）	□ 13	□ 13
	⑭	監視対応	□ 14	□ 14
	⑮	障害検知、障害調査対応	□ 15	□ 15
	⑯	問い合わせ対応（ヘルプデスク）	□ 16	□ 16
	⑰	パフォーマンス/コストチューニング	□ 17	□ 17
	⑱	分からない	□ 18	□ 18
	⑲	その他（　　）	□ 19	□ 19

Q23.　どのAI利用サービスを活用していますか。また、将来どのサービスを活用したいと考えていますか（それぞれいくつでも）

選択肢		現在活用しているサービス	将来（今後3年程度で）活用したいサービス
①	ChatGPT	□ 1	□ 1
②	Microsoft Copilot	□ 2	□ 2
③	Gemini	□ 3	□ 3
④	Claude	□ 4	□ 4
⑤	GitHub Copilot Coding Agent	□ 5	□ 5
⑥	Devin	□ 6	□ 6
⑦	Cursor	□ 7	□ 7
⑧	その他の生成AIツール	□ 8	□ 8
⑨	その他のAIエージェント	□ 9	□ 9
⑩	分からない	□ 10	□ 10

Q24.　AIの利用によって、貴社の人材採用・離職にはどのような影響が出ていますか。また、今後どのような影響が出ると考えますか。（それぞれいくつでも）

選択肢		現在生じている影響	将来（今後3年程度で）生じると考える影響
①	新卒の採用人数減少	□ 1	□ 1
②	新卒の採用人数増加	□ 2	□ 2
③	中途の採用人数減少	□ 3	□ 3
④	中途の採用人数増加	□ 4	□ 4
⑤	自社からの退職・転職者増加	□ 5	□ 5
⑥	自社からの退職・転職者減少	□ 6	□ 6
⑦	特に影響なし	□ 7	□ 7
⑧	分からない	□ 8	□ 8

Q25.　AI の利用によって、貴社の情報システム関連業務にはどのような影響が生じていますか。また、今後（3年程度で）どのような影響が生じると考えていますか。(それぞれいくつでも)

選択肢		現在生じている影響		今後（3年程度で）生じると考えられる影響	
		生成AIの普及と活用の影響	AIエージェントの普及と活用の影響	生成AIの普及と活用の影響	AIエージェントの普及と活用の影響
A. 企画・設計フェーズ					
①	技術選定等の調査・情報収集に関する時間の短縮	□ 1	□ 1	□ 1	□ 1
②	要件定義書や設計書の質の向上、手戻りの減少	□ 2	□ 2	□ 2	□ 2
③	要件定義書や設計書の作成工数削減	□ 3	□ 3	□ 3	□ 3
B. 開発・テストフェーズ					
①	コーディングの時間短縮	□ 1	□ 1	□ 1	□ 1
②	コードの品質の向上、手戻りの減少	□ 2	□ 2	□ 2	□ 2
③	テストケースの生成や実施の効率化	□ 3	□ 3	□ 3	□ 3
④	ドキュメント作成の工数削減	□ 4	□ 4	□ 4	□ 4
C. 運用・保守フェーズ					
①	障害検知や原因分析の時間短縮	□ 1	□ 1	□ 1	□ 1
②	定型的な運用作業（監視、チューニング等）の自動化・省力化	□ 2	□ 2	□ 2	□ 2
③	ユーザからの問い合わせ対応効率化	□ 3	□ 3	□ 3	□ 3
D. その他					
①	特に影響なし	□ 1	□ 1	□ 1	□ 1
②	その他（　　）	□ 2	□ 2	□ 2	□ 2

Q26.　AI の利用によって、貴社の受注/発注や取引関係にはどのような影響が出ていますか。また、今後どのような影響が出ると考えますか。(それぞれいくつでも)

選択肢		現在生じている影響	将来（今後３年程度で）生じると考える影響
①	協力会社への発注増加	□ 1	□ 1
②	協力会社への発注減少	□ 2	□ 2
③	取引先からの受注増加	□ 3	□ 3
④	取引先からの受注減少	□ 4	□ 4
⑤	新規の発注先拡大	□ 5	□ 5
⑥	既存の発注先減少	□ 6	□ 6
⑦	新規の受注先拡大	□ 7	□ 7
⑧	既存の受注先減少	□ 8	□ 8
⑨	特に影響なし	□ 9	□ 9
⑩	分からない	□ 10	□ 10

【AI を活用していない方にお伺いします（Q21 で①～③を一つも選択していない方）】

Q27.　AI を活用していない理由について教えてください。（それぞれいくつでも）

選択肢		生成AI	AIエージェント
①	AI を活用できる人材が不足している	□ 1	□ 1
②	当面は AI の影響がない（または、小さい）	□ 2	□ 2
③	AI を活用できそうな業務がない	□ 3	□ 3
④	AI の効果に関する理解が不足している	□ 4	□ 4
⑤	リスク（情報漏洩や著作権侵害）への懸念が大きい	□ 5	□ 5
⑥	AI を利用するためのルールやガイドラインの整備ができていない	□ 6	□ 6
⑦	分からない	□ 7	□ 7

【ここからは再び全ての方にお伺いします】

Q28.　貴社は今後 AI をどのように活用していくお考えですか。（いくつでも）

☐ 1. 個人が活用する効率化のツールとして
☐ 2. 特定業務における効率化・省力化の仕組みとして
☐ 3. 開発プロセスの根幹をなす基盤/インフラとして
☐ 4. 人間の代替となる要員として
☐ 5. 新規事業や新サービスを創出するためのコア技術として
☐ 6. 顧客への提案価値を高めるためのコンサルティングツールとして
☐ 7. その他/上記のような活用は想定していない
☐ 8. 分からない

Q29.　AI の利用によって、具体的に大きな影響が生じるのはいつ頃だとお考えですか。（それぞれ 1 つずつ）

選択肢		既に生じている	1年以内	2～3年以内	4～5年以内	6～10年以内	10年以上先	そのような状況は生じない	分からない
①	プログラマなど比較的経験が少ない人材が AI に代替されて大幅に削減される	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6	☐ 7	☐ 8
②	SE や PM など比較的経験を必要とする人材が AI に代替されて大幅に削減される	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6	☐ 7	☐ 8
③	AI を介することで、人間は自然言語を用いるだけでシステム開発が可能となる	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6	☐ 7	☐ 8
④	開発工程の大部分が AI によって自動化され、人間の関与する範囲が大幅に縮小される	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6	☐ 7	☐ 8

Q30.　AI による影響に対してどのような対策や対応を行っていますか。（いくつでも）

☐ 1. 比較的経験の浅い（熟練度の低い）人材の採用を削減している
☐ 2. 高度人材の採用を拡大している
☐ 3. 既存要員の IT（システム開発）スキル向上を図っている
☐ 4. 既存要員のリスキリング（AI 知識の獲得など）を図っている
☐ 5. 特別な対応は行っていない
☐ 6. 分からない
☐ 7. その他（　　）

Q31.　AI による影響で他社との協業や共創が増えましたか。また、今後増えると考えていますか。(それぞれ 1 つずつ)

選択肢		A.現在（この中から一つ選択）				B.今後（この中から一つ選択）			
		増えた	減った	変わらない	分からない	増えると考える	減ると考える	変わらないと考える	分からない
①	同業他社と自社間	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4
②	事業会社と自社間	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4

貴社における IT 人材の採用状況や採用のための施策についてお伺いします。

Q32.　貴社では、約 3 年前と比べて、IT 人材（DX 人材や AI 人材を含む）の獲得（採用）を強化していますか。(1 つだけ)

□ 1. かなり強化している
□ 2. 多少強化している
□ 3. 強化を検討している（まだ実施していない）
□ 4. 特に強化していない
□ 5. 分からない

Q33.　貴社では、約 3 年前と比べて IT 人材（DX 人材や AI 人材を含む）の獲得（採用）が難しくなっていると感じますか。(1 つだけ)

□ 1. 非常に難しくなっていると感じる
□ 2. 難しくなっていると感じる
□ 3. 変わらない
□ 4. 容易になっていると感じる
□ 5. 非常に容易になっていると感じる
□ 6. 分からない

【IT 人材の獲得（採用）が難しくなっていると感じている方にお伺いします（Q33 で 1 または 2 を選択した方）】

Q34.　採用が難しいと感じる理由について教えてください。（いくつでも）

☐ 1. 応募者数の絶対数が不足している
☐ 2. 求めるスキル水準に達する応募者がいない
☐ 3. 応募者の提示する給与水準が高騰している
☐ 4. 採用市場での他社との競争が激しい
☐ 5. 自社の事業や働き方の魅力が応募者に伝わっていない
☐ 6. 採用選考プロセスが市場のスピード感に合っていない
☐ 7. 分かりません
☐ 8. その他（　　）

【ここからは再び全ての方にお伺いします】

Q35.　必要な IT 人材（DX 人材や AI 人材を含む）を確保するために、約 3 年前と比べて、貴社が力を入れている施策はありますか。また、将来力を入れたい施策はありますか。（それぞれいくつでも）

選択肢		現在力を入れている施策	将来（今後3年程度で）力を入れたい施策
①	新卒採用	☐ 1	☐ 1
②	中途採用	☐ 2	☐ 2
③	既存社員の能力向上	☐ 3	☐ 3
④	既存社員のリスキリング	☐ 4	☐ 4
⑤	フルリモート/ハイブリッドの導入・拡大	☐ 5	☐ 5
⑥	海外/越境採用の活用	☐ 6	☐ 6
⑦	国内外注の活用	☐ 7	☐ 7
⑧	オフショア/ニアショアの活用	☐ 8	☐ 8
⑨	分からない	☐ 9	☐ 9
⑩	その他（　　）	☐ 10	☐ 10

Q36.　特にどのようなIT人材（DX人材やAI人材を含む）の獲得（採用）を強化していますか。また、将来強化したいと考えていますか。（それぞれいくつでも）

選択肢		現在獲得を強化している人材	将来（今後3年程度で）獲得を強化したい人材
A. 従来型IT人材			
①	**プロジェクトマネージャ**（プロジェクト全体を統括し、進捗・品質・コストを管理できる人材）	□ 1	□ 1
②	**シニアSE（上流SE）**（顧客要件定義や業務設計等の上流工程を担える人材）	□ 2	□ 2
③	**SE（システムエンジニア）**（設計・実装・テストを通してシステム開発を行う人材）	□ 3	□ 3
④	**プログラマ**（コーディングやテストなど具体的実装を担う人材）	□ 4	□ 4
⑤	**アーキテクト**（システム全体の方式・構成を設計し最適化できる人材）	□ 5	□ 5
⑥	**運用オペレーションエンジニア**（定型的なシステム運用・監視、維持管理等を担う人材）	□ 6	□ 6
B. DX/AI人材			
①	**プロダクトマネージャ**（デジタルやAIビジネスの実現を主導し価値を創出する人材）	□ 1	□ 1
②	**ビジネスデザイナー**（デジタルやAIを活用し新規事業を企画・推進する人材）	□ 2	□ 2
③	**プロダクトエンジニア**（デジタルやAIビジネスの価値を実装し具現化できる人材）	□ 3	□ 3
④	**データサイエンティスト**（事業・業務に精通し、データ分析で課題解決を行う人材）	□ 4	□ 4
⑤	**フルスタックエンジニア**（AIを活用し、要件定義から運用まで全工程を統合できる人材）	□ 5	□ 5
⑥	**フォワードデプロイドエンジニア**（顧客現場に入り、AIやデータを活用して課題を迅速に解決する人材）	□ 6	□ 6
⑦	**AIエンジニア/AIサイエンティスト**（AIモデル開発や生成AI応用を担う人材）	□ 7	□ 7
⑧	**データマネジメントエンジニア**（データ基盤を構築し品質・ガバナンスを確保できる人材）	□ 8	□ 8
⑨	**SREエンジニア**（自動化と継続的な運用改善による効率化により信頼性の向上を担う人材）	□ 9	□ 9

Q37.　事業会社でも IT 人材（DX 人材や AI 人材を含む）の獲得が行われています。貴社の IT 人材獲得に対して、事業会社のこうした活動は影響を及ぼしているでしょうか（事業会社における内製化の進展など）。また、今後影響を及ぼすでしょうか。（それぞれ 1 つずつ）

選択肢		現在生じている影響 この列から1つ	将来（今後3年程度で）生じると考える影響 この列から1つ
①	競合が明確に存在し、非常に大きな影響（事業会社との競合のために必要な人材を確保できないなど）。	□ 1	□ 1
②	競合が明確に存在し、大きな影響（採用予定の人材が事業会社を選ぶことがあるなど）。	□ 2	□ 2
③	競合を感じることがあり、影響あり（応募者数が減少するなど）。	□ 3	□ 3
④	競合を感じることはあまり/ほとんどない（同業他社との競合の方が深刻、など）。	□ 4	□ 4
⑤	分からない	□ 5	□ 5

Q38.　特に応募者から見た魅力を高める点で、IT 人材（DX 人材や AI 人材を含む）獲得に対して、貴社ではどのような取組を行っていますか。また、将来どのような取組を行いたいと考えていますか。（それぞれいくつでも）

選択肢		現在の取組	将来（今後3年程度で）行いたい取組
①	採用枠の拡大	□ 1	□ 1
②	年収の引き上げ	□ 2	□ 2
③	リファラル採用の実施	□ 3	□ 3
④	ジョブ型採用の実施	□ 4	□ 4
⑤	スキルアップやチャレンジの機会を増やすなど成長機会の拡大	□ 5	□ 5
⑥	労働環境の改善（残業の削減や有給取得の推奨など）	□ 6	□ 6
⑦	フルリモート/ハイブリッドの導入・拡大	□ 7	□ 7
⑧	柔軟な報酬・報奨（成果連動/市場連動レンジ）	□ 8	□ 8
⑨	特にない	□ 9	□ 9
⑩	分からない	□ 10	□ 10
⑪	その他（　　）	□ 11	□ 11

貴社で求められる人材のスキルについてお伺いします。

Q39.　今後はどのようなスキルを持った IT 人材（DX 人材や AI 人材を含む）が必要となると考えていますか。また、今後は発注先にどのようなスキルを求めたいと考えていますか。これまでよりも特に需要が高まると思われるスキルについて、最大 3 つまで選んでください。（それぞれ 3 つまで）

選択肢		自社で必要となるスキル この列から3つまで 生成ＡＩの普及と活用によって	自社で必要となるスキル この列から3つまで ＡＩエージェントの普及と活用によって	発注先に求めたいスキル この列から3つまで 生成ＡＩの普及と活用によって	発注先に求めたいスキル この列から3つまで ＡＩエージェントの普及と活用によって
A. ビジネススキル/ヒューマンスキル					
①	AI を活用したビジネスモデルや業務改革を企画・立案し、事業価値を高めるスキル	□ 1	□ 1	□ 1	□ 1
②	アイデアの価値を PoC 等で迅速に検証し、プロトタイプから実装までを推進するスキル	□ 2	□ 2	□ 2	□ 2
③	ユーザの潜在ニーズを深掘りし、顧客要件を引き出したり調整したりするスキル	□ 3	□ 3	□ 3	□ 3
B. テクノロジースキル					
①	先端 AI 技術の特性を理解し、ビジネス課題解決のために応用・実装するスキル	□ 1	□ 1	□ 1	□ 1
②	AI の特性を理解し、既存システムと連携させて拡張性・保守性を備えた全体アーキテクチャを設計するスキル	□ 2	□ 2	□ 2	□ 2
③	生成 AI の挙動を理解し、成果物（コード、設計書等）の品質を設計段階から担保して、開発プロセス全体の生産性を最大化するスキル	□ 3	□ 3	□ 3	□ 3
C. ガバナンス/統制スキル					
①	AI 倫理、法規制、セキュリティ等の観点からルールを整備し、信頼性を担保するための開発・運用プロセスを統制するスキル	□ 1	□ 1	□ 1	□ 1
②	レガシーシステムを安定稼働させつつ、段階的なモダナイゼーションを推進し、事業継続と変革を両立するスキル	□ 2	□ 2	□ 2	□ 2
D. その他					
①	特にない	□ 1	□ 1	□ 1	□ 1
②	その他（　　）	□ 2	□ 2	□ 2	□ 2

Q40.　これまで IT 技術者に求められていた重要スキルについて、今後の重要性はどのように変化すると考えますか。（それぞれ 1 つずつ）

選択肢		重要性が高まる	重要性に変化はない	重要性が下がる	不要となる	分からない
A. 企画・設計						
①	要件定義・要求分析	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
②	システムアーキテクチャ設計	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
③	オブジェクト指向設計・デザインパターン	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
B. 開発・品質						
①	プログラミング	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
②	テスト／品質保証	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
C. インフラ・運用・保守						
①	データベース設計・SQL チューニング	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
②	ネットワーク設計	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
③	OS／サーバ設計	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
④	セキュリティ設計	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑤	仮想化・コンテナ・クラウド	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑥	運用監視・ログ分析・インシデント対応・問い合わせ対応	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑦	パフォーマンス最適化／キャパシティプランニング	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑧	トラブルシューティング・根本原因分析	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
⑨	レガシーシステムの解析・保守	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
D. DevOps・自動化						
①	構成管理・バージョン管理	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
②	ビルド／デプロイ自動化・CI／CD	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
E. データ関連						
①	データモデリング・ETL・BI	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
F. マネジメント						
①	プロジェクトマネジメント（品質・コスト・納期管理）	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
②	見積もり・工数／予算管理・ベンダーコントロール	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
G. その他						
①	文書作成／管理	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
②	コミュニケーション・ファシリテーション・ネゴシエーション	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5

質問は以上で終わりです。長時間ご協力ありがとうございました。